

# 「2月定例議会」

会期 2022年2月19日より  
3月25日まで

- ・令和3年度一般会計予算及び条例制定など議案 95件、追加の4件を含む審議。
- ・一般質問、議案質疑並びに委員会で登壇しました。



愛知県議会 HP QRコード



愛知県議会だより QRコード

◎新型コロナウイルス感染症の克服とさらなる愛知の前進に向けた令和3年度一般会計予算 2兆7、163億円を可決

## 令和3年度一般会計予算

区分	予算額	前年度予算比(%)
一般会計	2兆7,163億700.0万円	105.6
特別会計	1兆3,515億2,360.2万円	99.7
企業会計	2,356億4,531.6万円	92.5
合計	4兆3,034億7,591.8万円	102.9

2月定例議会

### 「一般質問」

質問者 朝日 将貴

【問】水道料金の格差解消、水道広域化について

【答】保健医療局長

市町村等において水道料金が異なる理由。水道料金は、地方公営企業法の規定により、独立採算が原則とされており、様々な経費が、各市町村等において異なるため、差が生じる。水道広域化は、施設の統廃合や経営の健全化、人口減少に伴うスケールメリットを活かせる効果が期待される。「水道広域化推進プラン」を2022年度末までに作成する予定。



一般質問登壇

### 【予算項目抜粋】

- ・コロナウイルス感染症拡大防止のため医療提供体制の確保を継続
- ・コロナウイルス感染症の影響を受ける中小企業者や商店街を支援
- ・雇用維持・確保対策推進
- ・農作物産地の戦略的に取り組み推進と、農業生産力の向上を図る
- ・児童・生徒の心のサポート体制充実
- ・不妊症・不育症等に悩む方に対する支援を推進
- ・子ども・子育て支援新制度の着実な推進
- ・安心して子どもを産み育てることが
- ・できる保育サービスの充実
- ・自転車の安全で適正な利用を促進するため
- ・条例を制定し取組強化
- ・小学校第3学年に
- ・15人学級を拡充
- ・本格的な超高齢社会に向け、地域包括ケアを推進
- ・横断歩道の「歩行者保護」
- ・対策及び多発事故の防止啓発活動促進
- ・ゼロメートル地帯における広域的な防災活動拠点の整備を進める

防災活動拠点のイメージ

まとまった人数を大型ヘリコプターで内陸(津波浸水区域外)へ搬送  
避難所、病院など

救助活動の最前線拠点

命山 避難ビル 避難タワーなど

浸水区域内の孤立者をヘリコプターやボートで救出・救助し 防災活動拠点に集約

大規模な災害が発生した場合の、広域的な応援部隊や救援物資の集結・集積の場として、25か所の広域防災活動拠点を確保しています。弥富市の「海南こどもの国」も候補地。



自転車もヘルメット着用!  
児童・生徒等及び高齢者に購入費助成。

【問】教育の少子化対策とICT活用推進について

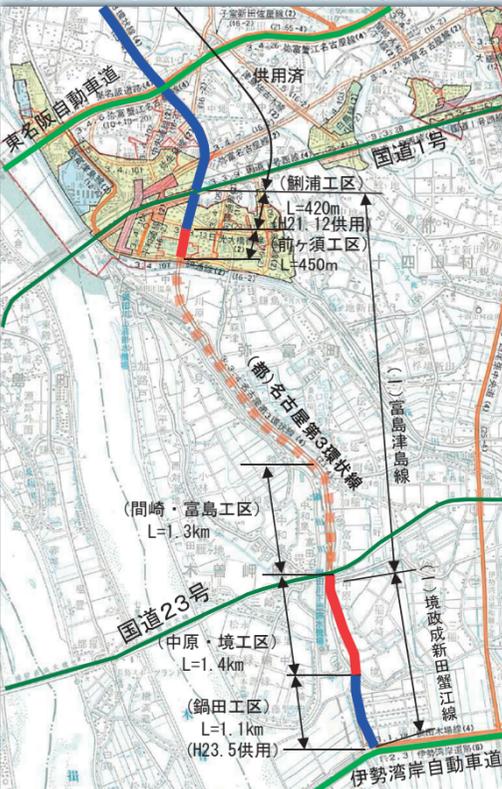
【答】教育長

《少子化対策》 中学校卒業生数の推移を踏まえた、今後の県立高等学校の再編や魅力化について、全県的な県立高等学校の再編構想を、2021年度中に取りまとめる。

《ICT活用》 全般的な助言を行う「ICT教育アドバイザー」事業の相談窓口を開設している。2020年3月に、「GIGAスクール構想共同研究会」を立ち上げ、ICT支援員の人材確保や地域の人材の活用などについて情報共有し、ICT学習活動を推進する。

【他】「愛知県知事解職請求について」質問しました。

### (都)名古屋第3環状線の事業概要



### 【要望】

都市計画道路名古屋第3環状線は弥富市周辺の安全・安心なまちづくりと、地域経済の発展にとって重要な道路である。国道23号より北の間崎交差点までの早期整備を要望する。

【他】「交通誘導員の円滑な確保について」

質問しました。

### 「議案質疑」

2月定例議会

質問者 朝日 将貴

【問】特定農業用管水路 特別対策事業費等について

【答】農林基盤局長

海部地域における農業用管水路のアスベスト対策の実施状況は、「特定農業用管水路特別対策事業」が創設された後、本県は全国に先駆けて対応している。海部地域では、455kmの農業用の石綿セメント管が確認されており、この事業等により、昨年度までに107kmを塩ビ管等に更新。本年度は、弥富市の鍋田中部地区を始め13地区21kmのアスベスト対策を進めている。

来年度は、2020年度2月補正予算と合わせ15か月予算で、前年度比で114%の約22億円の事業費を計上し、23kmを実施する予定。県として、県民の皆様の安全・安心の確保に向け、スピード感を持って、農業用管水路のアスベスト対策の推進に努める。

### ◎建設委員会

質問者 朝日 将貴

【問】都市計画道路名古屋第3環状線 前ヶ須工区の整備状況について

【答】都市整備課長

前ヶ須工区として、都市計画道路日光大橋西線から筏川の北側までの約450m区間で事業を実施。平成30年度から事業着手し、これまでに6割を超える用地を取得。今後も、引き続き用地買収を進め、早く供用できるように、事業進捗を図っていく。

【問】中原・境工区の整備状況について

【答】道路建設課長

用地取得は9割を超えており、残る用地の取得に努めていく。工事については、この地域の地盤が軟弱であり、特に盛土工事においては、盛土荷重による地盤の沈下が収束するまでに一定期間必要となることから、工程管理に努め、早期供用に向け事業進捗を図っていく。

【問】国道23号より北側の未事業化区間の整備取組方針について

【答】道路建設課長

未事業化区間約5kmについては、間崎交差点までの約1.3km区間と、中原・境区と一体で整備する。

来年度は、道路設計や国道23号との交差協議に必要な交通量推計を行い、公安委員会や国土交通省など関係機関と協議し進める予定。